

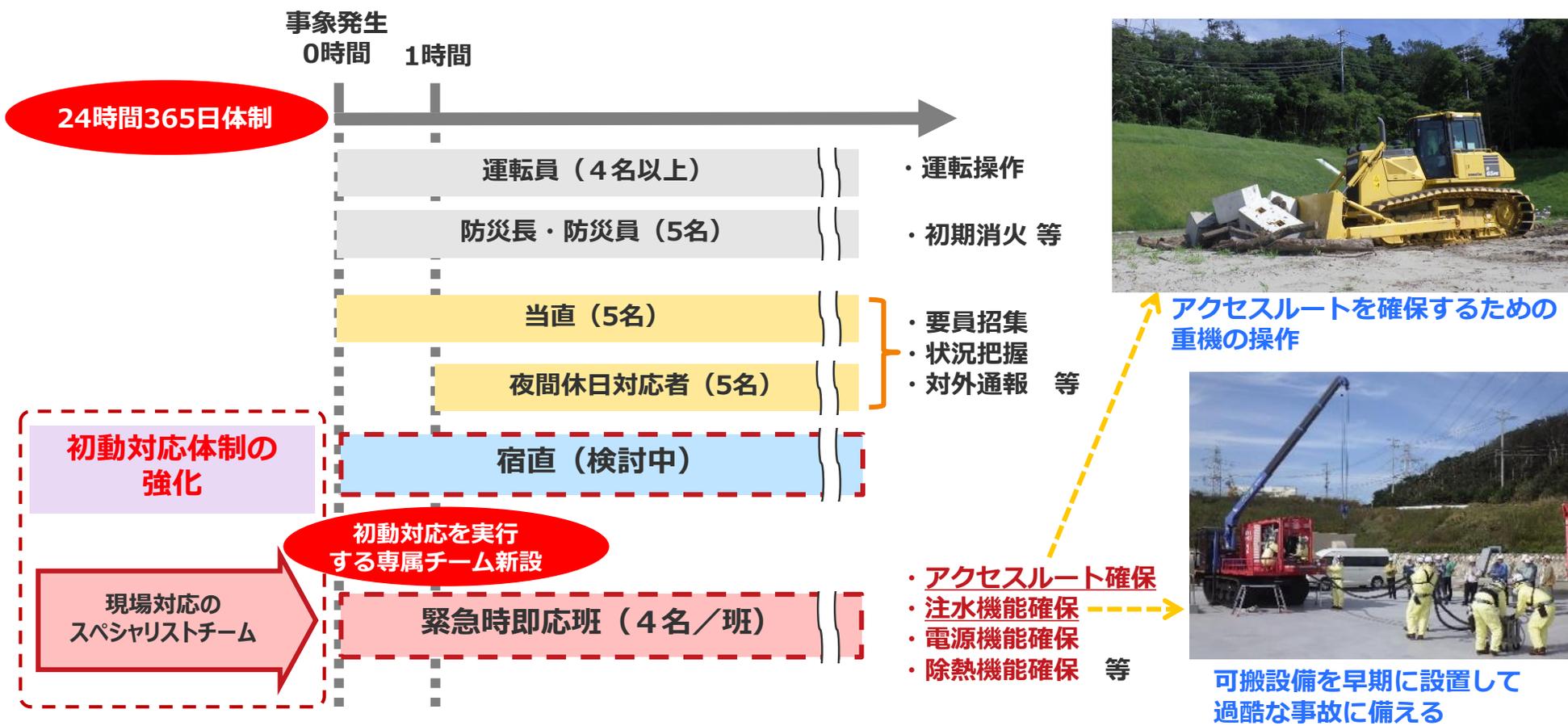
原子力規制委員会 山中委員 御視察時説明資料 (緊急時対策所での説明用)

2022年8月29日

本資料のうち、枠囲みの内容は機密事項に属しますので、公開できません。

緊急時即応班(ERF)の概要(1/2)

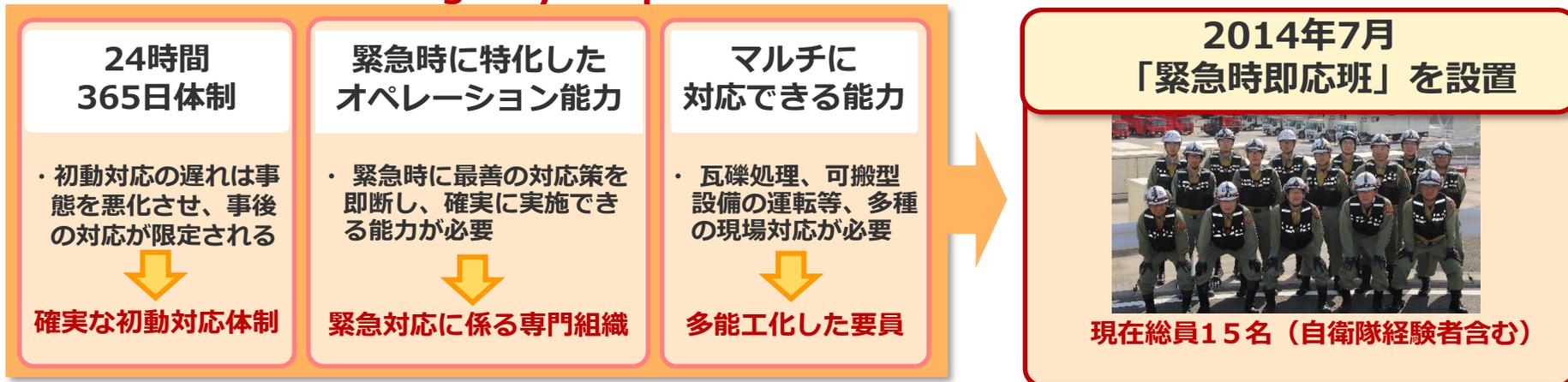
- 休日・夜間においても、発生直後からの対応の迅速化を図るため、初動対応を確実に実施できる要員を24時間365日確保することを目指し、初動対応体制の強化を図っている。
- 津波等により、現場にアクセスできない状況、原子炉への注水ができない状況に備え、初動の重機・可搬型設備を扱う専門組織として「緊急時即応班(ERF)」を設置し、現在運用開始に向け準備を進めている。



緊急時即応班(ERF)の概要(2/2)

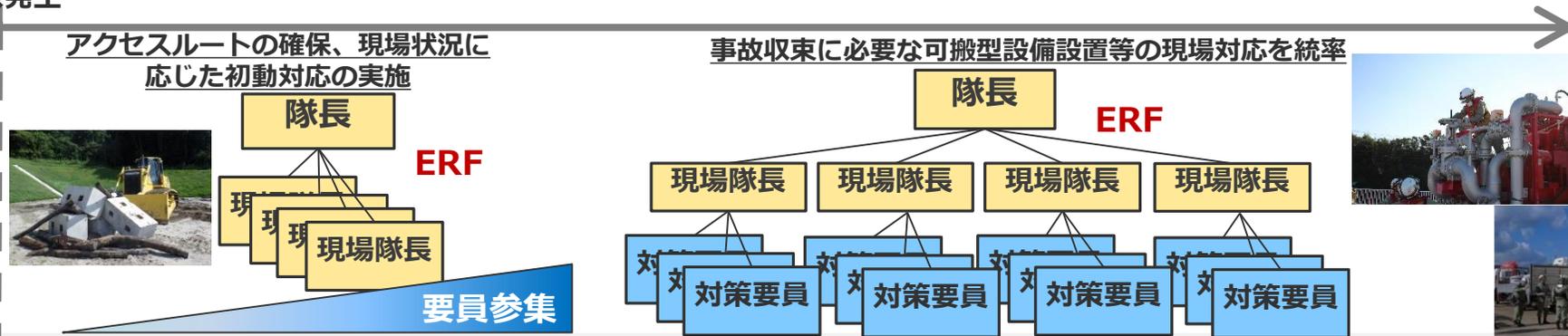
- ERFは、真っ先に現場へ駆けつけ初動対応を行うとともに、対策要員を統率し、現場対応にあたる。

ERFの設置 (ERF:Emergency Response Force/緊急時即応班)



ERFの活動イメージ

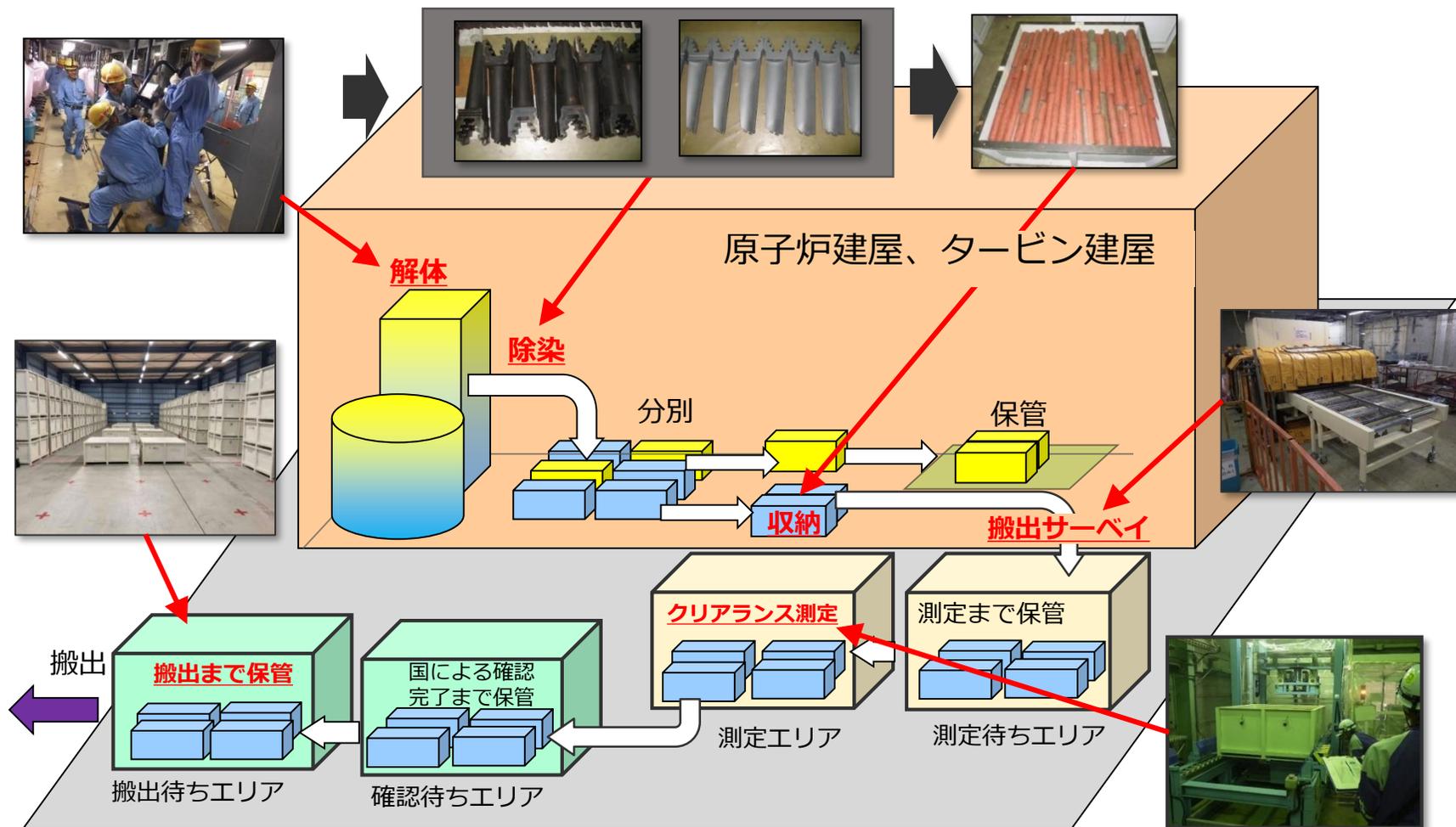
事象発生



解体物の処理に向けた対応

■ 低レベル放射性廃棄物として処理

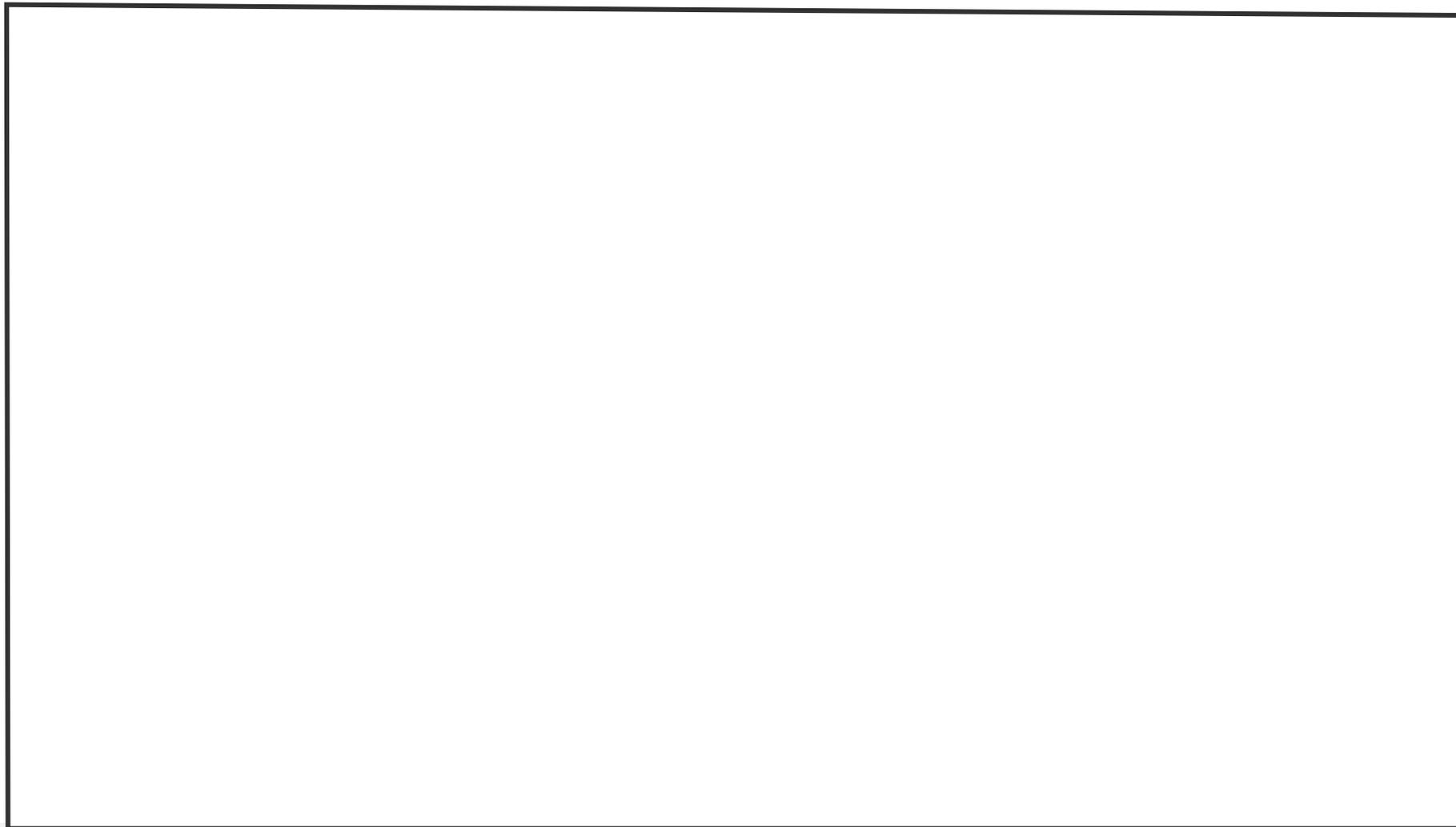
■ クリアランス物として処理



グレーチングの設置箇所

枠囲みの内容は機密事項に属しますので、公開できません。

国による放射能濃度の確認を終え、「放射性物質として扱う必要がないもの」と認められたクリアランス金属（約530トン）のうち、約80トングレーチング(2311枚)として再利用する。



○合意形成までの経緯

- ・ 木村鋳造所に相談を開始（2021年6月）
- ・ 鋳造所役員、御前崎製作所従業員の浜岡原子力発電所視察（12月・1月）
- ・ クリアランス再利用計画の公表（2月）
- ・ マスコミ、発電所および工場周辺住民への説明実施（2月～3月）
- ・ 約80トンのクリアランス金属を用いた2311枚のグレーチング製造の契約締結（3月）



打合せ風景

(密なコミュニケーションを心がけた)



役員の方々の視察風景



報道風景

(契約締結後にマスコミ公開を行った)

○合意形成までのステップ その1

商用軽水炉として初の搬出であるため、風評被害が生じる可能性を懸念

- 説明の範囲（町内会、環境委員会）、順番を地区選出議員等に相談し、適切な範囲に丁寧な説明ができるような環境を作った。
- マスコミには、記者クラブに出向いたり、個別を訪問することで、丁寧に説明を行った。
- ✓「自分の畑の近くにも敷設して欲しい」等の前向きなご意見多数
- ✓TVや新聞等でも持続的な社会形成に繋がる前向きな取り組みであることを正しく受け取ってもらえた。

金属廃材の再利用
木村鋳造所と契約
中電浜岡原発
中部電力は14日、浜岡原
発（御前崎市佐倉）の1、
2号機の廃炉作業で発生し
た「クリアランス物」の金
属の再利用について、木村
鋳造所（長泉町）と契約を
結んだと発表した。木村鋳
造所は御前崎市内にある製
作所で、金属約80トを使っ
て全長約1・4mの側溝の
ふた（グレーチング）に加
工する。
クリアランス物は放射能
濃度が極めて低く、人体に
影響がないと国に認められ
た廃棄物。中電は完成した
グレーチングを浜岡原発の
敷地内で活用する方針。木
村鋳造所はホームページで
「循環型社会形成の一翼を
担うべくこの事業に取り組
む」とコメントした。

公表日翌日の静岡新聞記事



御前崎市議会原子力対策特別委員長のコメント
(静岡放送ニュース)

○合意形成までのステップ その2

安心感を持って製造に取り組んでもらえるように

- ▶ 役員だけでなく、御前崎製作所の管理職、組合代表の方に浜岡を視察いただき、他の従業員の方の疑問・不安に自身で体感した感覚、言葉で、答えてもらえるようにした。
- ▶ 御前崎製作所従業者様には、約270名（ほぼ全員）に説明を実施した。
 - ✓ 御前崎製作所の所長からはクリアランス物を扱うことについて、「正直はじめは不安だったが、実際にしっかりと管理されている様子を見て安心した。今は取扱うことに不安はない」とコメント頂いた。



木村鋳造所 所長のコメント
(テレビ静岡ニュース)



木村鋳造所役員によるサーベイ風景